

ニュースクリップ & 映像教材

協会情報

■令和7年度教育映像祭「優秀映像教材選奨」

応募状況

(一財)日本視聴覚教育協会主催による標記選奨の応募作品数は次の通り。

1. 小学校(幼稚園含)部門【教育映像】 1作品
2. 中学校部門【教育映像】 2作品
3. 高等学校部門【教育映像】 6作品
4. 社会教育部門【教育映像】
〔家庭生活向〕4作品
〔市民生活向〕15作品
5. 職能教育部門【教育映像】
9作品(シリーズ含む)
6. 教養部門【教育映像】 0作品

教育映像はすべてDVD。

教育デジタルコンテンツへの応募はなし。

■令和7年度「全国自作視聴覚教材コンクール」

応募状況

(一財)日本視聴覚教育協会主催、他共催による標記コンクールの応募作品数は次の通り。

1. 小学校部門(幼稚園・保育所を含む) 15作品
2. 中学校部門 5作品
3. 高等学校部門 7作品
4. 社会教育部門 35作品

なお、前項の「優秀映像教材選奨」および「全国自作視聴覚教材コンクール」の表彰式は、令和7年9月29日(月)、霞が関プラザホール(東京都千代田区霞が関3-2-5霞が関ビル1F)にて行われる予定。

<問い合わせ先>(一財)日本視聴覚教育協会
TEL 03-3431-2186

■第71回教育映像祭「夏休みこども映画フェア」

(一財)日本視聴覚教育協会、東京都小学校視聴覚教育研究会では、令和7年8月18日(月)10:00~11:30、文京シビックホール・小ホール(東京都文京区春日1-16-21)において、標記映画フェアを教育映像祭の一環として開催する。親子で楽しめる映画5作品を上映予定(詳細は、裏表紙を参照)。入場無料。

<問い合わせ先>東京都中野区立鷺の杜小学校
武智「夏休みこども映画フェア」係
TEL 03-5364-7135

AV情報

■ICC キッズ・プログラム 2025「みくすとおりていーず——まよいの森とキミのコンパス」

NTTインターコミュニケーション・センター(ICC/NTT東日本(株))は、標記展覧会を開催する。

<日時>令和7年8月8日(金)~9月15日(月・祝)11:00~18:00

<会場>NTTインターコミュニケーション・センター(東京都新宿区西新宿3-20-2東京オペラシティタワー4F)

<内容>「Mixed Reality」(複合現実)の技術による作品展示。空想と現実を重ねる作品。入場無料だが、当日入場は事前予約優先。

<問い合わせ先>ICC TEL 0120-144199

■公開シンポジウム「情報教育の現状と未来~情報教育課程の設計指針の改訂について~」

日本学術会議情報学委員会情報学教育分科会主

催により、標記シンポジウムがハイブリッド開催される。

<日時>令和7年9月4日(木) 15:30~17:30

<会場>北海道科学大学(札幌市手稲区前田7条15-4-1)

<内容>総合討論等。参加費無料。要事前申込。

<問い合わせ・申し込み先>同学術会議HPのイベント一覧を参照。

コンクール・助成情報

■「2025年度子どもたちの“こころを育む活動”」募集

(公財)パナソニック教育財団は、子どもたちのこころの成長につながる活動を表彰するため標記の活動を募集している。

<対象となる活動>家庭、地域、学校、企業などグループで継続している活動、子どもたちに持ってほしい“3つのこころ”が育まれる活動。

<賞>全国大賞50万円、優秀賞20万円。

<締切>令和7年9月3日(水) 17:00まで。

<問い合わせ先>(公財)パナソニック教育財団
TEL 03-5521-6100

■第20回「科学の芽」賞

筑波大学では、自然や科学への関心と芽を育てることを目的とした標記コンクールを開催する。

<応募資格>小学校3~6学年、中学校、義務教育学校、高等学校(高等専門学校3年次までを含む)、中等教育学校、特別支援学校(小学部3年~高等部)の個人もしくは団体。

<応募内容>自然現象の不思議を発見し、観察・実験して考えたことを10枚以内にまとめる。

<締切>令和7年9月13日(土)消印有効。

<問い合わせ先>筑波大学「科学の芽」賞実行委員会(学校支援課) TEL 03-3942-6806

学会情報

■日本デジタル教科書学会 第14回年次大会(愛知大会)

日本デジタル教科書学会では、「いま、デジタル教科書の進化・深化・真価を問い直す」をテーマに、標記大会を開催する。

<日程>令和7年8月23日(土)、24日(日)

<会場>瀬戸SOLAN学園初等中等部(愛知県瀬戸市道泉町76-1)

<内容>基調講演、発表等。要事前申込。

<問い合わせ先>日本デジタル教科書学会
MAIL office●js-dt.jp(●はアットマークに)

■日本教育情報学会第41回年会

日本教育情報学会では、「Next GIGAと教育現場の変革」をテーマに標記年会を開催する。

<日時>令和7年8月30日(土) 10:00~17:45、31日(日) 9:30~16:00

<会場>大阪教育大学柏原キャンパス(大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1)

<内容>基調講演、シンポジウム、課題研究等。

<問い合わせ先>学会HPより。

各地の情報

■奈良教育大学附属中学校「ICT公開研修会」

奈良教育大学附属中学校では、「ウェルビーイングを支える学校文化の再構築(リフレーミング)~社会課題に向き合うESD探究学習とオーセンティックな学びの創造~」を研究主題に、標記研修会をZOOMにより開催する。

<日時>令和7年8月30日(土) 9:00~12:20

<内容>実践発表、講演。要事前申込。申込締切は、令和7年8月27日(水)。

<問い合わせ先>奈良教育大学附属中学校
TEL 0742-26-1410

文部科学省選定作品

■6月選定 紙 紙しばい DVD

「かいくんのたなばたかざり」紙 8枚<幼稚園/幼児、教養>(株)童心社

「カルガモ ぴーちゃん」紙 12枚<幼稚園・小学校低学年/幼児・小学校、教養>(株)童心社
「ザ・ウォーク ~少女アマル、8000キロの旅~」

80分<青年・成人、国際性(国際理解・平和)>ユナイテッドピープル(株)

映像作品等選定一覧の詳細は、下記を参照のこと。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/movie/

※本欄掲載のイベント開催等の最新情報は、主催者<問い合わせ先>に、ご確認ください。



「関東大震災映像デジタルアーカイブ」

国立映画アーカイブ主任研究員 大澤 浄

本サイトは、NFAJの配信サイトの中でももっとも準備に手間がかかけられ、見せ方にも工夫がこらされたサイトである。2021年9月1日に開設され、都度更新を重ね、(1923年9月1日の関東大震災発生からちょうど100年にあたる)2023年9月1日に「完結」した。

関東大震災の発生直後、非常に多くの記録映画が撮影されたが、互いに似通った内容のものが多く、どういう作品が何本あるかはよくわかっていないままであった。NFAJでは、長い年月をかけてそれらを整理し、デジタル化して一堂に集めることにより、本サイトを立ち上げることができた。

まず、動画の見せ方を工夫した。他の配信サイトとは異なり、本サイトでは通常の「全篇を(頭から終わりまで)みる」という視聴以外に、撮影された場所ごとの映像クリップを見ることや、火災や家屋の倒壊・損壊、救助活動や復興の様子など、映っているシーンの内容ごとに映像クリップを見ることも可能にした(写真)。これによって「火災炎上中の神田」といった、より具体的な映像内容をすぐ見つけられるようになった。

続いて、これら記録映画を専門家がどう見るかということに焦点を当てた12点のコラムを掲載した。この中では、建築史の専門家が仮設住宅の映像に細かく目を留め、記録映画作家が被写体との関係からカメラマンの心情を推察し、横浜市史の専門家が『関東大震災』[伊奈精一版]として知られてきた映像の撮影時期を推定している。これらは、専門的な知識と関心によって、記録映画から多くの豊かな情報を読み取ることができるという映像リテラシーの重要性を示すと共に、関東大震災



写真・シーンの内容別にまとめられたクリップ集

という未曾有の災害が、今もなお、さまざまな分野で読み解かれ、考察され続けていることを示している。

本サイトが完結するまでには、多くの方々^{まさる}の協力が不可欠であったが、中でも田中傑氏(現・常葉大学教授)と、とちぎあきら氏(現・一般社団法人日本映像アーキビスト協会代表理事)の存在は大きいものであった。都市史・災害史の専門家である田中氏は、1923年当時の古地図や住所録など、さまざまな資料を駆使して、複雑極まりない関東大震災記録映画の各シーンの場所と日付を特定し、その情報が屋台骨となって本サイトを支えている。また、とちぎ氏は、NFAJの職員として長く活躍されたその見識を活かし、サイト作りのアイデアやコラムの編集作業の中核を担われた。こうした専門家の地道な研究の積み重ねなくしてデジタルアーカイブは成功しないということを知ったのも、本サイト構築の大きな成果であった。

教材は、下記URLにアクセスしてください。
<https://kantodaishinsai.filmarchives.jp/>
 <問い合わせ先>国立映画アーカイブ
 MAIL : kanto1923@nfaj.go.jp